

第16回 『田の草取り（第5弾）』

と き 2013年7月20日（土） 9:30 - 17:00

ところ 谷っ戸ん田

天 気 晴れ時々曇り

参加者 石田・ヒデ（AM）、久保、佐々木利江（AM）、高田直子（15時まで）、高橋（17時前まで）
計6名（子ども1人含む）

【午前】

- ・ 「無農薬」の米作りとは、ある意味「無能役」である。能力に頼らず、草を取る役をひたすら演じること。これを辛いと思うか、楽しむかで、な～に谷っ戸ん田の継続が決まる。
- ・ ついに、田の草取りは第5弾となった。
- ・ 前日の19日に、園主は「土用干し」ということで、田んぼの水を抜いてくれていた。これによって、稲は力強く根を張っていく。ウィークエンド・ファーマーの我々は、そういう作業をタイミングよくできないことに歯がゆさを感じるのだが。
- ・ なので、やれることは、ひたすらに雑草を抜くこと。
- ・ 毎週土曜日には、9時前に谷っ戸ん田へ行く。この時季、まず見るのは稲の生育と雑草の力強さ。
- ・ 参加人数は決して多くない。ということは、十分に雑草との闘いを楽しめると自分に言い聞かせて田んぼに入る。
- ・ 高田さんからのキュウリとトマトの差し入れがあり、午前の休憩はそれが楽しみとなった。



【お昼】

- ・ ランチを前に、佐々木さんが終了。お疲れ様でした。
- ・ ランチを終えて、石田さんとヒデ君が終了。お疲れ様でした。

【午後】

- ・ 残りの3人（久保、高橋、高田）は十分な休養を取って、午後の作業に備えた。
- ・ だが、お天道様が雲に隠れない。炎天下の作業は、危険を伴う。
- ・ 13時半過ぎに、少し曇天模様となったので、草取りを再開。
- ・ 15時前に一区切り。この時点で、高田さんが終了。お疲れ様でした。
- ・ 残ったのは、久保と高橋。高橋さんも夜に用事があるとのことで、16時半過ぎに、この日の作業を終了。お疲れ様でした。
- ・ 結果として、谷っ戸ん田の3/5は草取りができたものの、残りは次週へ持ち越しとなった。
- ・ 久保が作業完了の連絡を園主にしようとしたがつまみならず。園主の手伝いをされているおじちゃんに伝言を残し、17時に一人解散。
- ・ 自宅に戻って、すぐにシャワーを浴び、ビールで自分に乾杯。次週の最終決戦に向け、一人宴は深夜まで続いた。

（記録：久保 文雄）